

令和5年度大学の世界展開力強化事業プログラム委員会（第2回）議事概要

1. 日 時 令和5年9月8日（金）15:00～17:00

2. 開催方法 Web 会議

3. 出席者 委員 浅田委員、飯吉委員、今村委員、牛木委員、勝委員、黒田委員、
國領委員、杉村委員、但田委員、長尾委員、林委員、日比谷委員、
宮本委員
文部科学省 西條大臣官房審議官、
植村高等教育局参事官（国際担当）付参事官補佐、
吉岡高等教育局参事官（国際担当）付専門官 ほか
事務局 水本独立行政法人日本学術振興会理事、
小谷独立行政法人日本学術振興会理事、
高見沢人材育成事業部長、安藤大学連携課長、安永同課長代理 ほか

4. 議題及び概要

（1）大学の国際化にかかる施策の最新状況

文部科学省から、大学の国際化にかかる施策の最新状況【資料1】に基づき説明があった。
主な意見は以下のとおり。

- ・外国人留学生の卒業後の定着に向けた企業等での受け入れについて、民間側としては学生を積極的にインターンで受け入れる、雇用制度の工夫をする等、様々な自助努力は考えられるが、産学官の官側の具体的な施策や対応も知りたい。
- ・令和6年度に予定されているEU諸国・ASEAN諸国等との大学間交流形成支援事業について、EU・ASEANはナショナル・クオリフィケーション・フレームワーク、質保証の仕組み、そしてマイクロ・クレデンシャル等が非常に進んでいる地域ということだが、次年度の事業においても、既定路線と考えるのではなく、これをさらに活用していくということが非常に大事である。
- ・日本の国内問題として、特に学部を中心とした大学の定員割れや、大学院博士課程の進学率・充足率の低下が非常に問題になっているが、そこを単に留学生で埋めるということでは学生の質の低下が懸念される。
- ・学生の海外派遣については中長期の学位取得あるいは単位互換というところが非常に重要になる。そのため短期派遣については、安易に予算を使うべきではない。
- ・高度外国人から選ばれない日本の大学となっているとのことだが、理由として、賃金が相対的に低くなっている等、総合的に考える必要がある。
- ・SGUの後継プログラムとして大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業と提案されているが、地域社会との協働による国際化と日本の大学の知の展開といった2つの方向性を出しており、大変面白く興味深い。知の展開については既存の海外拠点等と

の役割分担についてどのように考えるのか。

- ・企業側の印象として、地方における採用問題は入社そのものもそうだが、入社後に日本型の長期雇用がかみ合わず退職することについても実は大きな問題である。企業側も少しずつジョブ型マネジメントをするように意識してきている。

(2) 海外相手大学追加について

文部科学省から、海外相手大学追加について【資料2】に基づき報告があった。

(3) 「大学の世界展開力強化事業」採択大学での事業実施における取組部局の追加について

文部科学省から、「大学の世界展開力強化事業」採択大学での事業実施における取組部局の追加について【資料3】に基づき報告があった。

(4) 令和5年度選定候補の承認について

なお、上記議題(4)については「「大学の世界展開力強化事業プログラム委員会」の審議内容等の取扱いについて」1. (1) ①(審査・評価に関する調査審議など公平・公正な審査に影響を及ぼすことが懸念される場合)に該当することから、内容は非公開とする。